

# 令和5年度 学校評価アンケート 考察 地域・保護者様へ

学校評価アンケートへの御協力ありがとうございました。今後とも、本校の教育活動への御理解、御協力、さらには各御家庭でのお声掛けや御指導を、よろしくお願ひします。

## ○知の面

### 成果

- ・学びを磨き合うどの質問も、児童は「(だいたい)あてはまる」が昨年度7割超だったが、今年度は8割を超えた。
- ・学びを磨き合うどの質問も、保護者は「(だいたい)あてはまらない」が昨年度3割を超えていたが、今年度は減少した。

### 課題

- ・学習過程で理解できなかった部分をそのままにしている児童が、昨年度同様2割いる。

### 考察

- ・昨年度よりは減少したものの、児童が基礎基本を理解できているか不安を感じている保護者がいる。
- ・学習に対し前向きな姿勢が示されたが、不安を抱えていたり、改善を求めているりする保護者も少なくない。

※4月実施6年生対象全国学力学習調査では、平均点を下回る結果だった。

## 次年度に向けて

確かな学力を身に付けさせるために…

- ・引き続き各教科での基礎基本を大切にし、来年度も高学年を中心に教科担任制を活かしながらわかりやすい授業を実現する。
- ・昨年度以上に教師がICTを活用する機会が増加し、児童のスキルアップにつながった。今後もICTの活用を増進していく。
- ・昨年度以上にキャリア教育を意識した授業を実践することができた。今の学びが未来に繋がっていることを、今後も児童が感じられるようにしていく。

## ○徳の面

### 成果

- ・昨年度同様、児童は命の大切さについて思いやりある回答率が多く、十分理解している。
- ・友達の良いところやいじめは絶対にしてはならないこと知っている児童が非常に多い。

### 課題

- ・友達の良さを認めることができる児童が多い反面、自分を誉めることができない児童が2割を超えている。
- ・昨年度同様、軽はずみな言動が見られる実態がある。一方でそのことを多くの児童は自覚しているため、さらに気持ちが行動に表れるようにしていく必要がある。そうすることで、いじめにつながっていかないよう十分留意する必要がある。
- ・自己肯定感の高い児童を増やしていきたい。

### 考察

- ・失敗を経験しながら成長していく場所が学校であることを、子供たちが感じられるよう、引き続き学校と保護者とで伝えていきたい。
- ・今年度同様、来年度も「いのちについて考える日」「いじめや命について考える月間」「いじめ撲滅のための児童集会」を継続しつつ、より充実させる手立てを検討する。同時に、道徳の授業を充実させていく。
- ・今年度好転した状況も見られた「あいさつ運動」「あいさつボランティア活動」をより充実させる手立てを検討しつつ、来年度も継続する。

## 次年度に向けて

「自他を認める思いやりの心」を育み、「自分の良さや頑張りを認められる」子供を育て「やさしさいっぱい」の子供の育成をより一層目指していくために…

- ・子供たち一人一人が安心して活動でき、称揚される場を増やしていくこと。
- ・子供たちが友達と支え合いながら仲良く生活できる学級経営の基盤をつくること。
- ・行事や学年・学級活動を通じた仲間づくり、集団づくりを大切に、一人一人が安心・安全に学校生活を送ることのできる学級経営を行うこと。
- ・しなやかな心を「失敗しても柔軟に受け入れる心」に焦点化させること。
- ・いじめ撲滅をテーマにした代表委員会や全校集会などの取り組みを継続していくこと。

## ○体の面

### 成果

- ・「心身を鍛え合う」のどの質問も、児童は「(だいたい)あてはまる」が昨年度と同様に8割を超えている。
- ・個人差はあるものの、昨年度同様多くの児童は学校生活において進んで体を動かしたり力いっぱい体育科の授業に取り組むことができおり、自信もつき始めている。

### 課題

- ・運動に取り組む意識及び体力向上は、昨年度と大きな変化が見られなかった。
- ・昨年度と同様に、児童と保護者の間に、「体を動かしている」という認識の差が見られた。学校と家庭がさらに連携して、運動への取り組みを推進していく必要がある。

### 考察

- ・「(あまり)あてはまらない」と回答した子や「心身を鍛える」ことに苦手意識を持っている児童に対し、めあてを立てて活動に取り組み「できた」「伸びた」を体感できるようにしていく必要がある。

## 次年度に向けて

児童が「笑顔あふれる」学校生活を送るために…

- ・「健やかな心身」の育成のために、基本的な生活習慣を定着させ、さらに体力・健康を保持増進すること。
- ・「安心安全な学校」のために、自身と他者の安全を考えて行動できるように促すこと。
- ・安全で健康的な生活を目指し「基本的な生活習慣の定着」「保健指導」「食育」「防災・安全指導」のさらなる充実も図っていくこと。

「挑戦する姿勢」を身に付けさせるために…

- ・自主的・継続的な体力づくりを行う場を設けたり、体を動かしたくなる仕掛けを用意したりすること。また、家庭にも体力づくりにつながる啓発をすること。
- ・「挑戦する姿勢」の育成に向け、スモールステップで活動を行うこと。→学年イベントの実施については、計画的に練習期間や準備期間を設け、児童が休み時間等を活用し継続して運動できる環境を作り出す。(R5 6年のように)
- ・達成感と共に称揚し、主体的に挑戦しようとする児童の育成を行うこと。

## ◎まとめ

昨年度と同様に、それぞれの項目について「(あまり)あてはまらない」児童や保護者もいることを忘れることなく、引き続きだれもが通いたくなる葵西小学校を目指すための実践を重ねていく。そのためにも、来年度も継続して自己肯定感と自己有用感を高める支援を心掛けていく。

なお、昨年度の反省からさくら連絡網を活用する機会を増やしたが、今後も保護者の思いに応えられるよう、迅速かつ的確に伝達できるよう継続していく。

「文書配付」と「さくら連絡網送信」の違い 押さえ

- ◇お家の見えるところに貼っておきたいお知らせは「文書配付」と「さくら連絡網送信」で。
- ◇そうでないものはさくら連絡網限定を基準に伝達。